

「第2回 Harima CV Echo 座談会」報告書

2025 年 9 月 24 日報告

第2回 Harima CV Echo 座談会を日本心エコー図学会の後援を受け、開催したので報告する。

【開催概要】

- 開催名：第2回 Harima CV Echo 座談会
- 日時：2025 年 8 月 11 日（月祝）13：00～18：00
- 場所：兵庫県立はりま姫路総合医療センター 教育研修棟 1 階 講堂
- 超音波機器協力：株式会社フィリップス・ジャパン
キャノンメディカルシステムズ株式会社
GE ヘルスケア・ジャパン株式会社
- 参加者数：ハンズオン 40 名、座学 85 名
- 内容：ハンズオンおよび講演、症例検討、画像目合わせ
- プログラム：
 - 13：00 ハンズオン ①心臓ベーシック ②心臓中級 ③頸動脈 ④下肢静脈 ⑤ルートガイド
 - 15：00 基調講演 「血管エコーに魅せられて」
北播磨総合医療センター 脳神経内科部長 濱口浩敏先生
 - 15：40 地域ミニ座談 「エコーガイド下ルート留置の有用性」
姫路赤十字病院 重症患者支援管理担当看護師 今川真理子先生
 - 16：05 症例検討会
 - 症例 1 心臓 姫路医療センター 検査科 中津留実夢先生
 - 症例 2 頸動脈 北播磨総合医療センター 中央検査室 山本義徳先生
 - 17：10 Lets!Impression 地域間目合わせ
 - 心臓症例提供 姫路聖マリア病院 技術部 杉本幸太郎先生
 - 血管症例提供 ツカザキ病院 臨床検査科 阿部さやか先生

【内容詳細】

今回の参加者総数は 85 名で大規模病院から医院まで大小の施設で勤務する技師や看護師が集まり、ハンズオンセミナー、講演、症例検討、画像の目合わせを行った。ハンズオンセミナーは心臓、血管等 5 ブースを用意し、1 ブース当たり 5～7 名の受講者で講師は顧問の先生方やベテラン技師、看護師にいただいた。受講者一人あたり 15～20 分の持ち時間で質問をしながら説明や画像を描出するコツなどを教えていただいた。

引き続き行われた座学ではまず、北播磨総合医療センター濱口先生に「血管エコーに魅

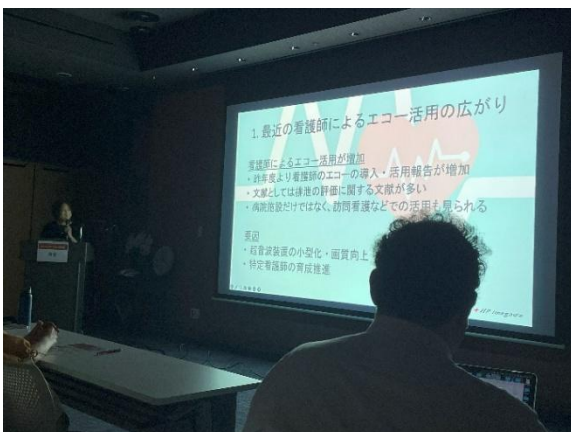
せられて」と題して先生が血管エコーを始められたきっかけやエコーの魅力を実際の症例を提示しながらご講演いただいた。次にミニ座談として「エコーガイド下ルート留置の有用性」を姫路赤十字病院今川看護師に看護師がエコーを利用してルート留置をするに至ったきっかけや教育の進め方を講演いただいた。

「症例検討」は2題あり、心臓に腫瘤を形成した悪性リンパ腫と椎骨動脈血流に呼吸性変化を認めた症例を提示いただいた。本座談会の症例検討の進め方はまず初めに演者は患者背景や検査結果、超音波画像までを提示し、座長と参加者で判読、質疑応答をしながら疾患、病態の予想を立てる。その後演者が答え合わせとして追加の画像を提示し、診断結果の解説や画像を見る際のポイントなどの説明をするという流れで行った。

「地域間目合わせ」では心臓のEF、MRの重症度、頸動脈プラークの性状評価の目合わせを行った。用意した画像を供覧し、グーグルフォームで投票、解答結果を開示し、参加者や出題者の意見を聞きながら顧問の先生方に解説いただき、意見をまとめる形で行った。

【まとめ】

本座談会の目的は超音波に携わるコメディカルが相互の親睦・連携を図り、医学、医術の発展を目指すこととしている。現在は播磨地域で勤務する検査技師10名と看護師2名が世話人となり、川合宏哉先生（神戸大学大学院医学研究科特命教授）、大西哲存先生（おおにし心臓クリニック院長）、濱口浩敏先生（北播磨総合医療センター脳神経内科部長）に顧問をしていただき、全員で企画運営を行っている。今回第2回目を開催し、初めてハンズオンセミナーを企画した。各分野でご高名な先生方とベテラン技師に講師をしていただき一人当たり持ち時間も十分にあったので各参加者はそれぞれにルーチン業務で困っていることなどを質問することが出来、有用であったと考える。また座学の症例検討や目合わせは参加型であり、初心者が自ら考え、またベテランはどんなことを考えて検査をしているのかが聞け、大変有意義であると考えている。参加者の感想も上々で、今後も当地域全体の超音波に携わるコメディカルの技術、知識の底上げを目指しこの座談会を続けていきたい。



ハンズオンセミナー、講演、親睦会の風景